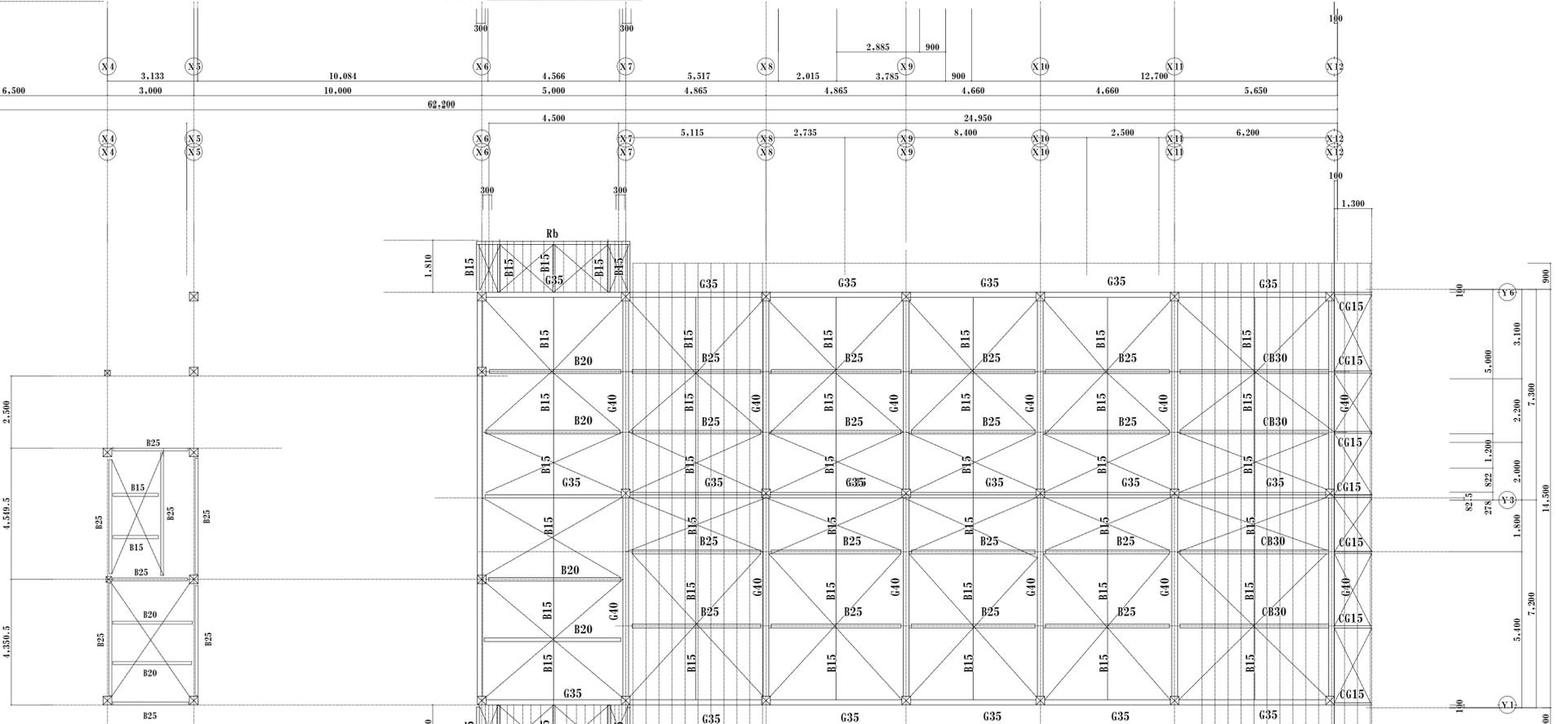
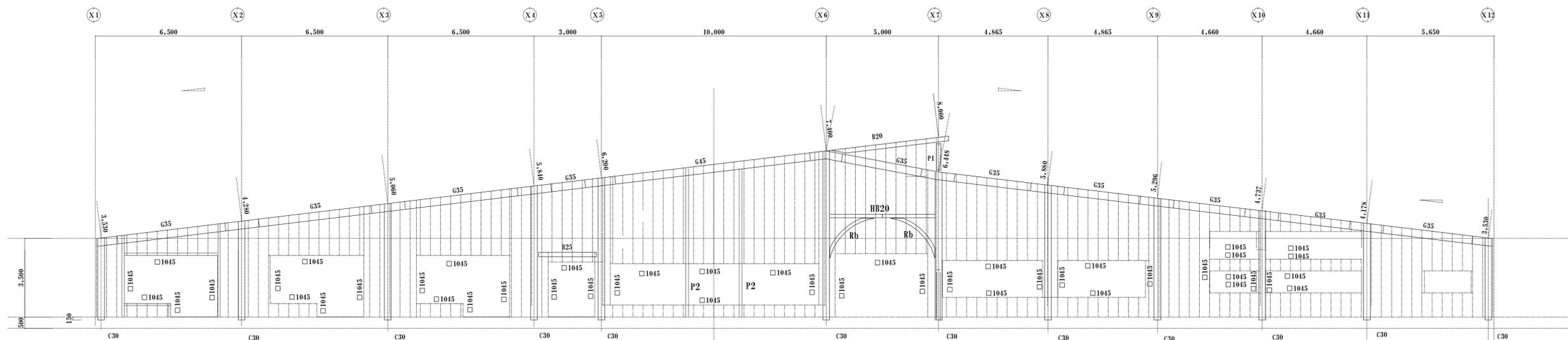


屋根 伏図



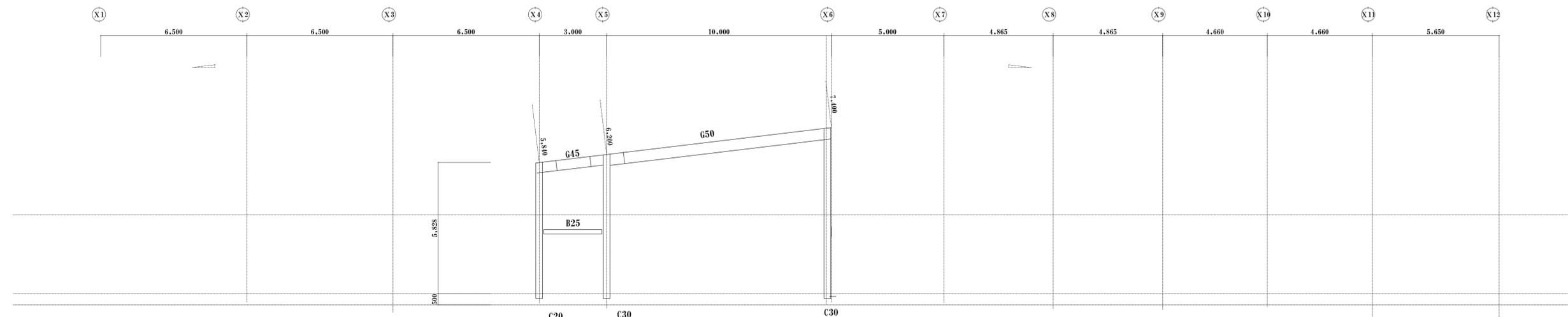
中2階 床伏図

屋根 伏図

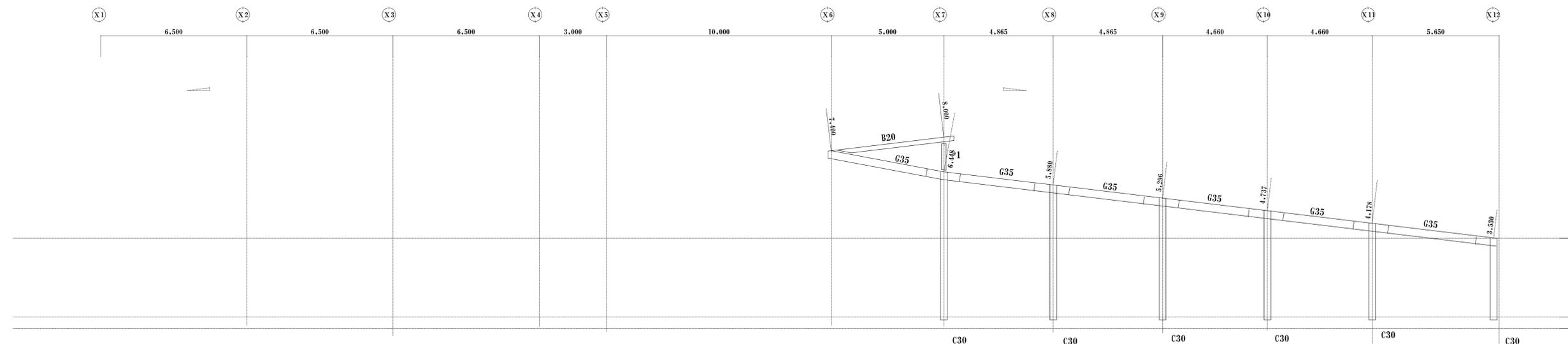


Y1通

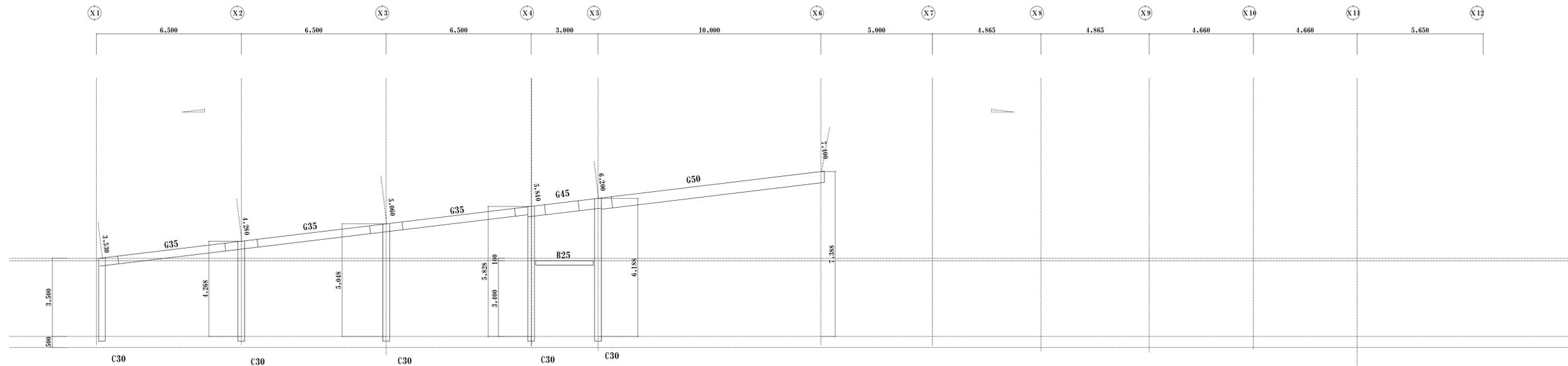
特記なき胴縁は C-100x50x20x2.3 @455



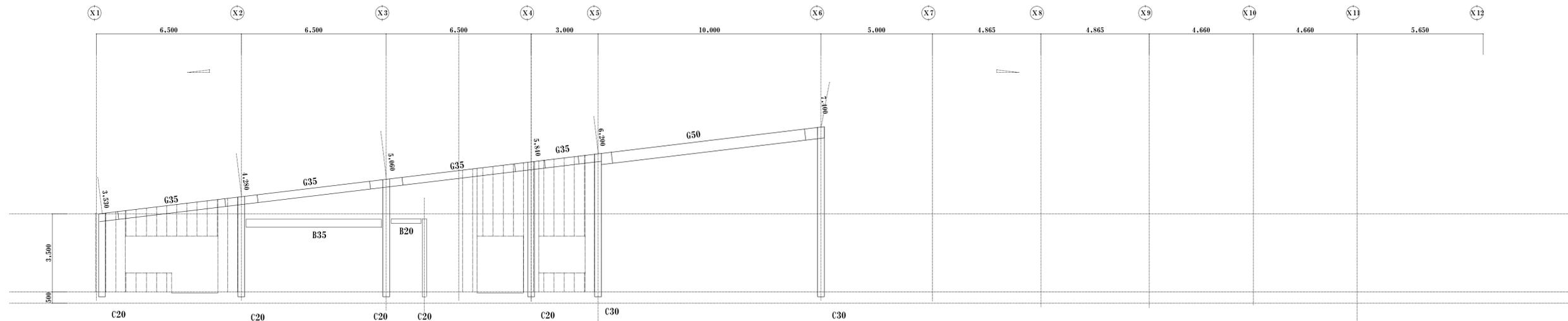
Y2通



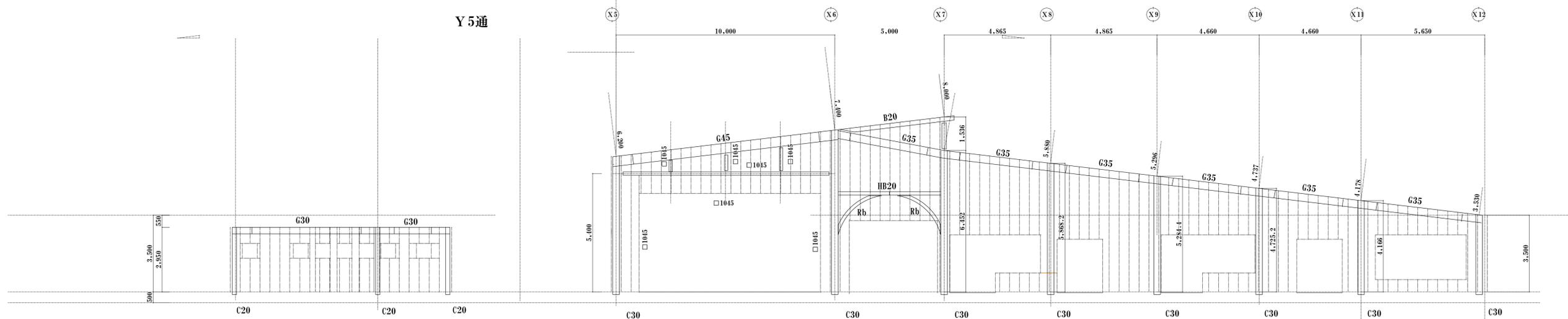
Y3通



Y4通

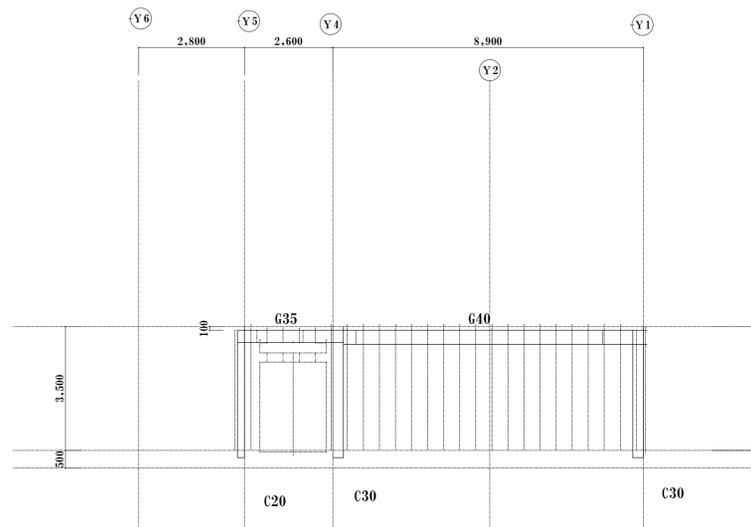


Y5通

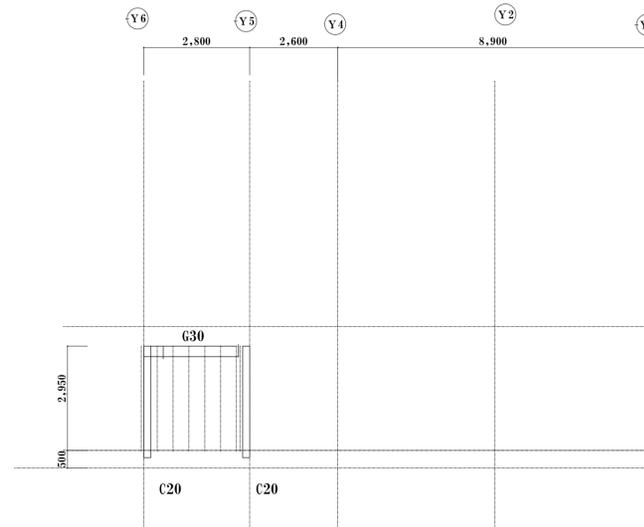


Y6通

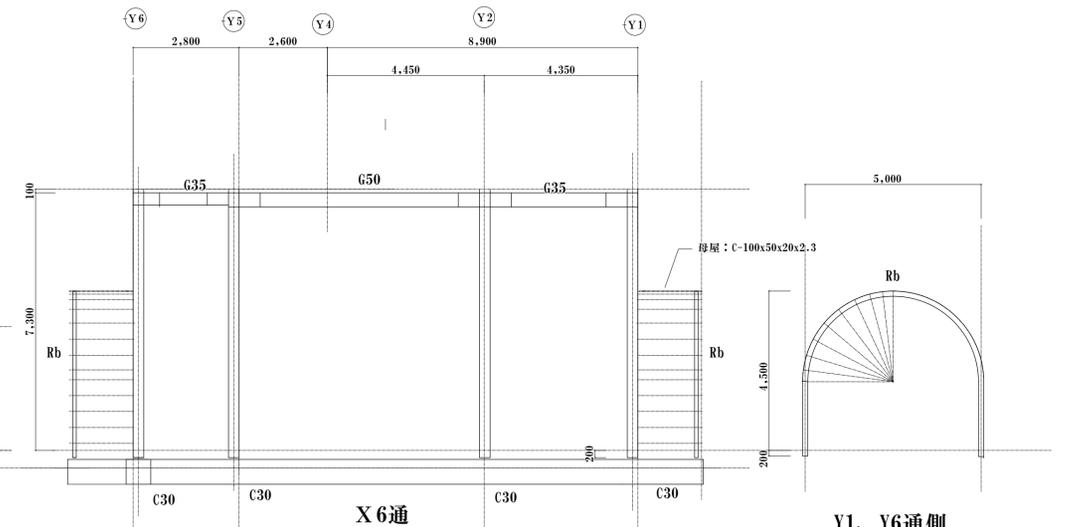
Y6通



X1通

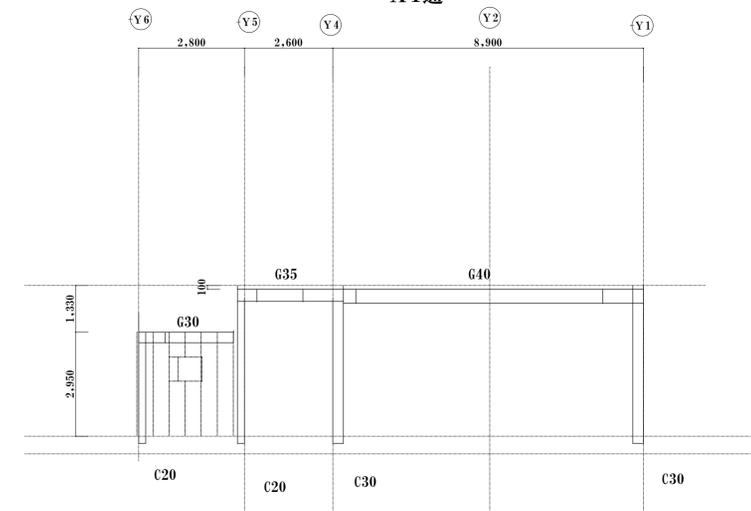


X3'通

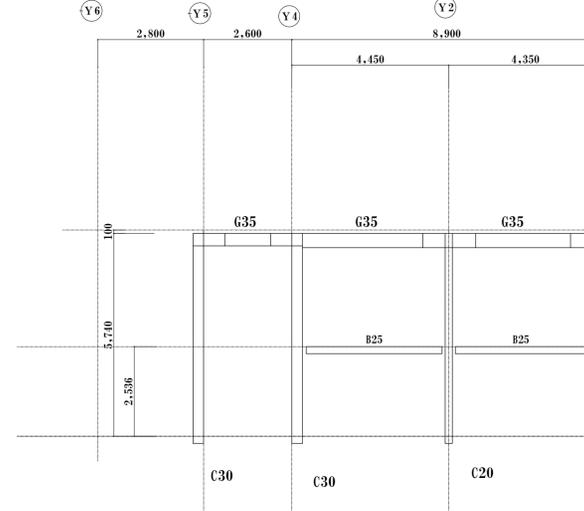


X6通

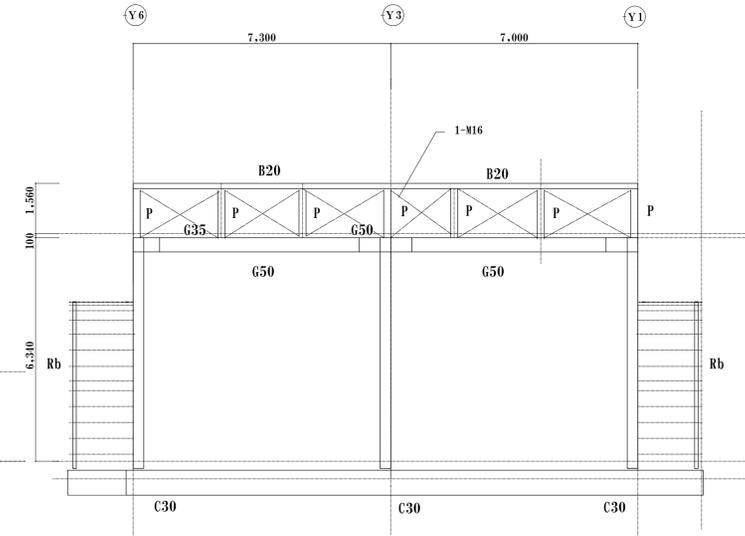
Y1、Y6通側



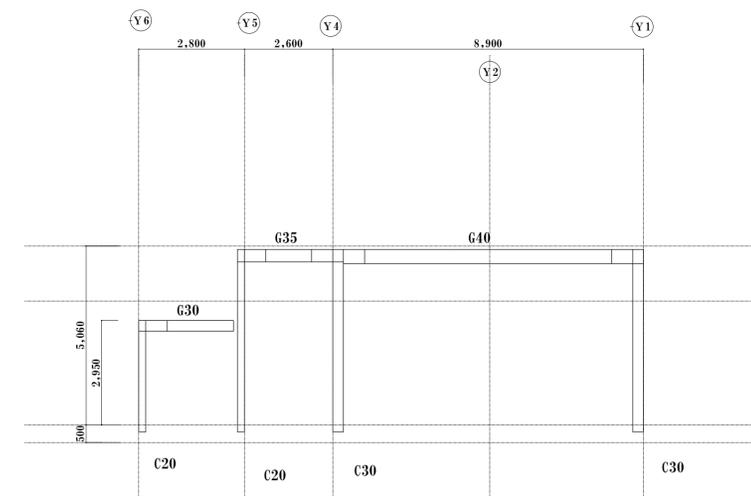
X2通



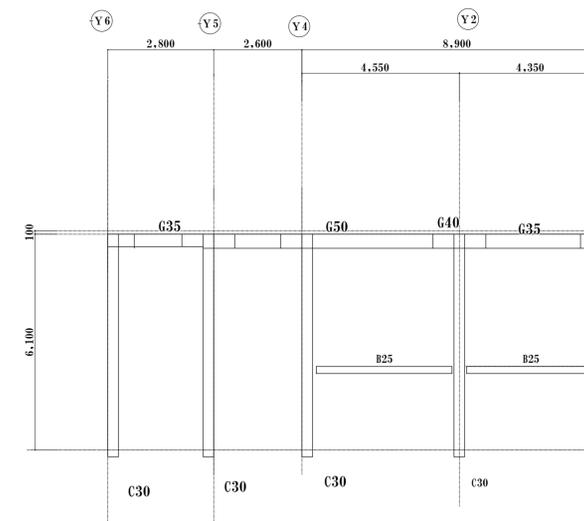
X4通



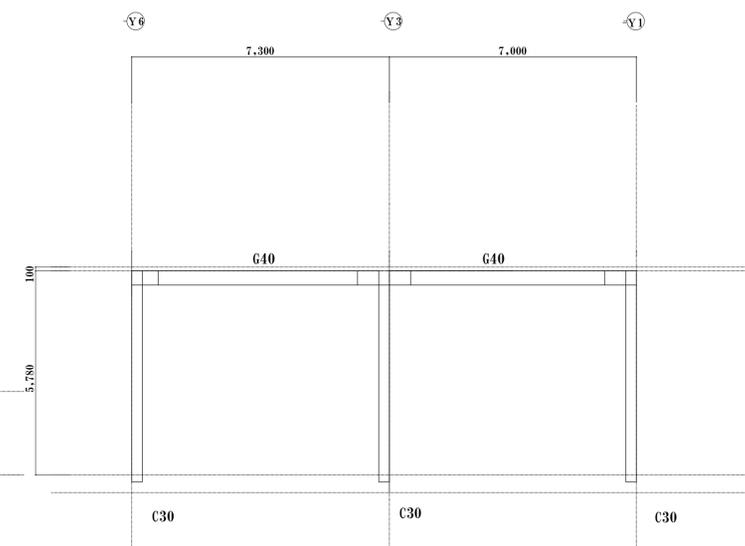
X7通



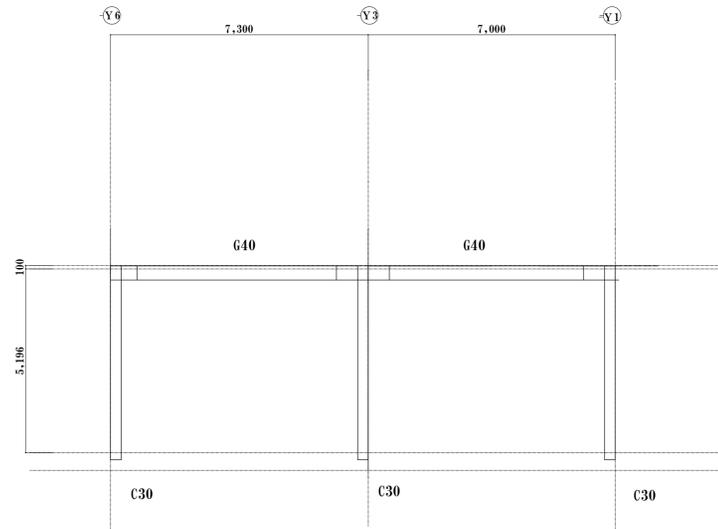
X3通



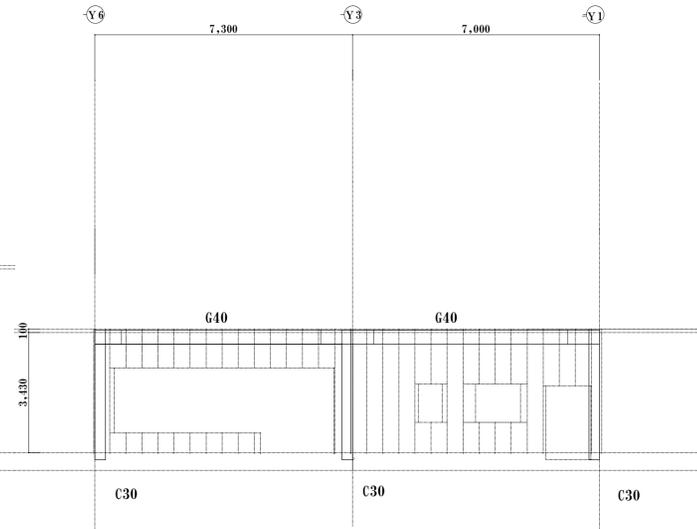
X5通



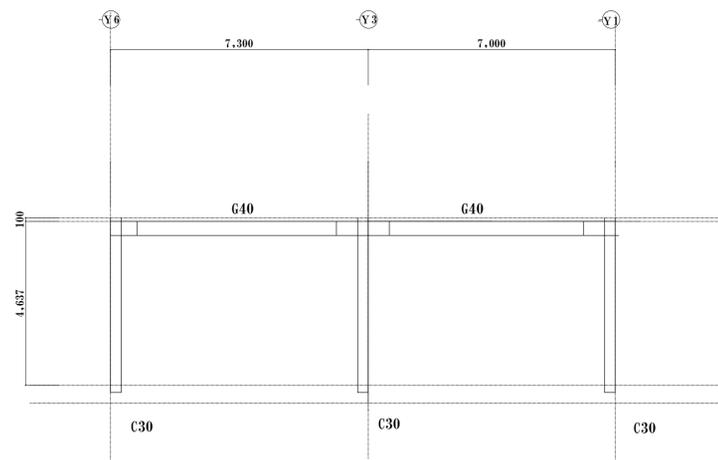
X8通



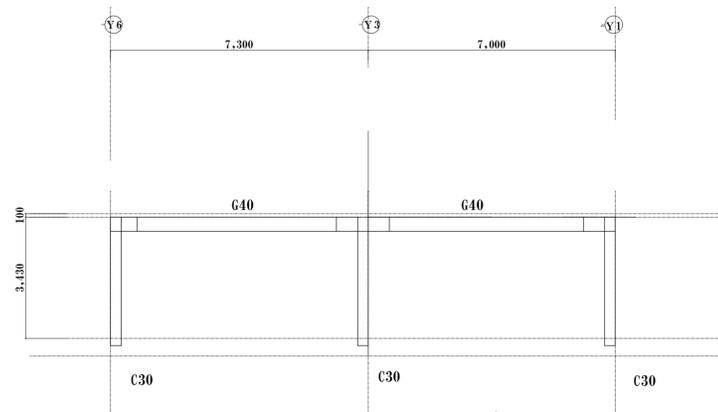
X9通



X12通



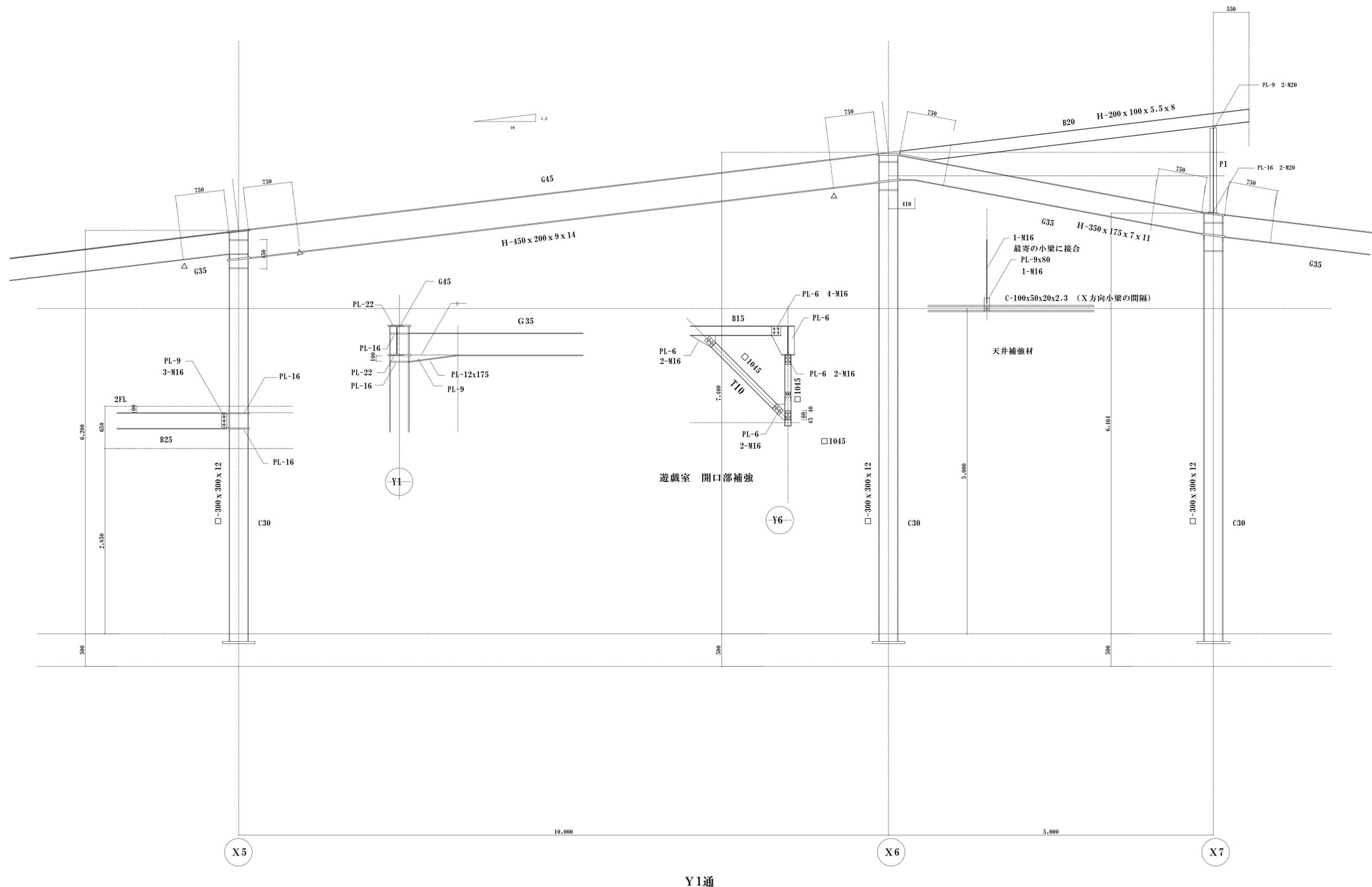
X10通

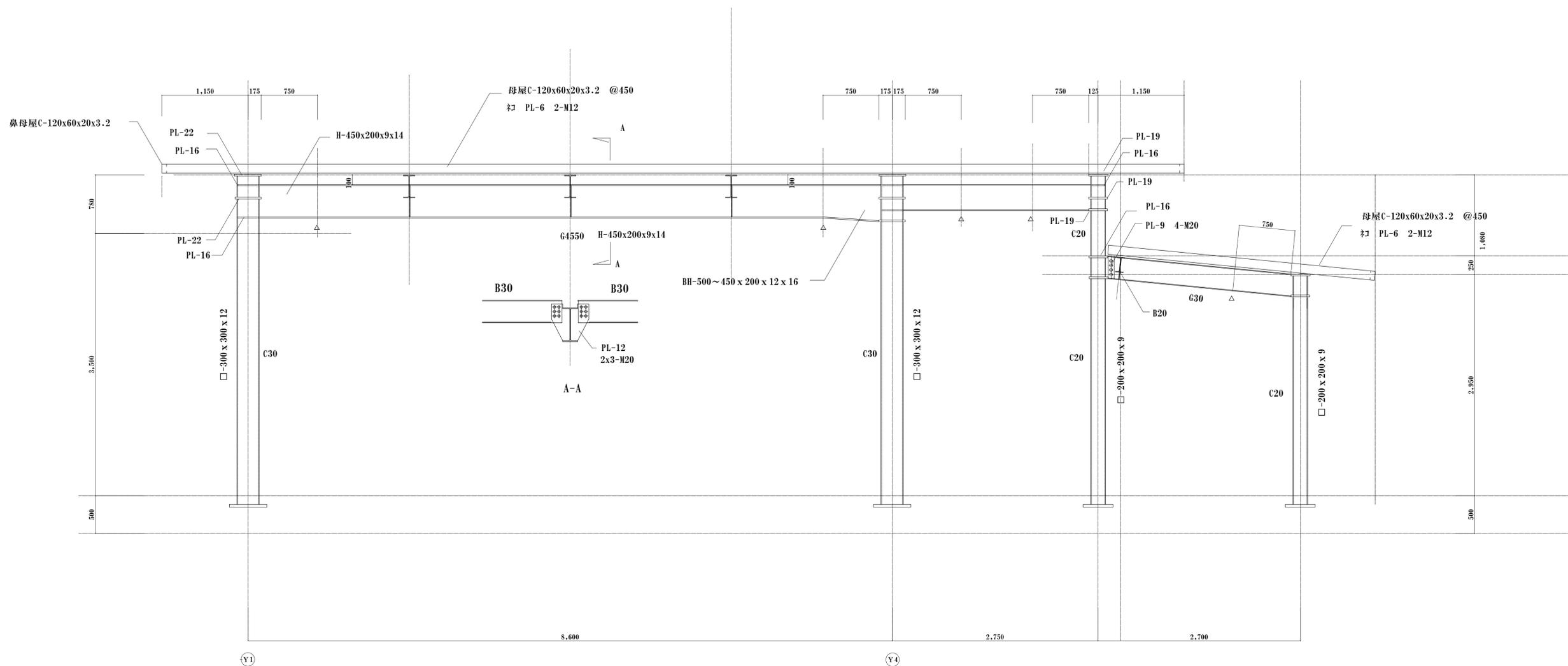


X11通



Y1通





X 3 通

§ 1 一般事項

1-1 地耐力

1-2 地盤改良

建屋内部土間 厚120mm 土間下地盤改良 改良厚500mm 80kg/m³ 混入
建屋外周土間 厚150mm 砕石厚120mm 土間下地盤改良 改良厚500mm 80kg/m³ 混入

1-3 使用杭

G-ECSパイル回転圧入工法（認定工法）

杭径	杭耐力	杭長			杭種		
		上杭	中杭	下杭	上杭	中杭	下杭
190.7φ x 7.0		4.5m			STK490		
216.3φ x 8.3		4.5m			STK490		

試験杭又は試験掘りの結果に依り、基礎仕様決定を行う。

1-4 コンクリート

躯体一般・・・Fc 21N-18-25 土間コンクリート・・・Fc 21N-15-25
捨コンクリート・・・Fc 18N-15-25 ラブコンクリート・・・Fc 18N- 8-40
デッキコンクリート・・・Fc 18N-18-25 コナクリート圧縮試験は各打設工程毎
7x7x12本を採取し現地養生、標準養生の1週及び4週の試験を行う。係員の承認が有れば上記試験を省略する事が出来る。

1-5 鉄筋

D16 以下 SD295A JIS規格品 D19 以上 SD345 JIS規格品
いずれも引抜き試験 継手はD16以下は重ね継手、D19以上はガス圧接継手を原則とし、係員の承認が得られれば重ね継手としてよい。

1-6 その他

設計図に記載なき場合は 本標準図 に従い、本標準図に明記なき場合は JASS 5 による。

§ 2 共通事項

2-1 鉄筋の表示記号

記号	1	1	●	x	●	○	●
鉄筋	6φ	D10	D13	D16	D19	D22	D25

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 圧接継手表示

2-2 鉄筋の折り曲げ

鉄筋末端部			
鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の曲げ内法寸法	鉄筋の余長
180°		D16以下 : 3d以上 D19以上 : 4d以上	4d以上 6d以上 8d以上
135°			
90°			
鉄筋中間部			
鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所	鉄筋径の区分 鉄筋の曲げ内法寸法
90° 以下		あばら筋 帯筋	D16以下 : 3d以上 D19以上 : 4d以上
		上記以外	D16以下 : 4d以上 D19以上 : 6d以上 D25以下 : 6d以上

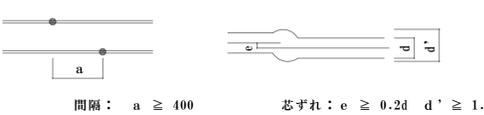
2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

コンクリート設計の標準強度	重ね継手の長さ (L1)	定着の長さ (L2)	定着の長さ (L3)	
			小梁	床版
N16以上 N18以下	45dまたは 35dフック付	40dまたは 30dフック付	25dまたは 15dフック付	10dまたは 15cm以上
N21以上 N24以下	40dまたは 30dフック付	35dまたは 25dフック付		

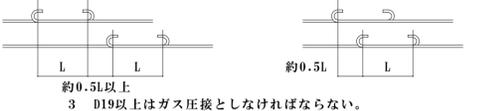
- 1 末端のフックは、定着長さに含まない。
- 2 d は鉄筋の公称直径とする。
- 3 耐圧スラブの下端筋の定着長さは L2 とする。
- 4 直径の異なる重ね継手長さは、細い方の d による。

2-4 継手一般

1 圧接継手



2 重ね継手（下記いずれかとする。）



4 鉄筋径の差が5mmを超える場合はガス圧接を行って

2-5 鉄筋のあき

異形鉄筋 1.7d以上、且32mm以上 鉄筋のあき

鉄筋径が異なる場合は大きい方による。 d：鉄筋の公称直径

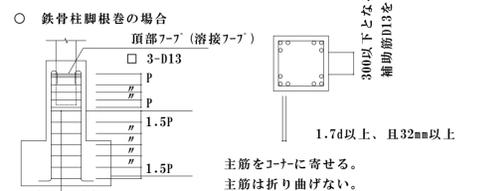
2-6 かぶり厚さ

部 位	屋 内	屋 外
土に接しない部分	スラブ、非耐力壁	30 ※40
	柱、梁、耐力壁	40 ※50
	擁壁、耐圧スラブ	50 50
土に接する部分	スラブ、耐力壁、柱、梁	50 50
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	70 70
煙突等高温を受ける部分	70	70

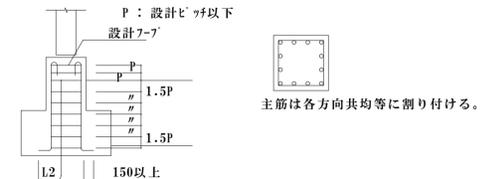
※印は耐久性上有効な仕上げの有る場合は係員の承認を受け、10mm減ずる事ができる。
打ち直し仕上げに対しては10mm以上打ち増す事。

§ 3 柱

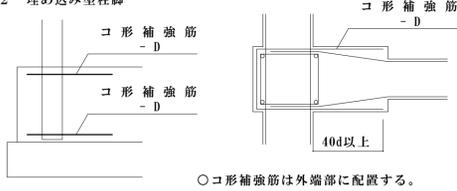
3-1 主筋の定着 帯筋



○ 鉄骨露出柱脚の場合 P：設計フック以下 設計フック



3-2 埋め込み型柱脚



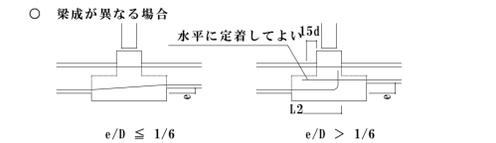
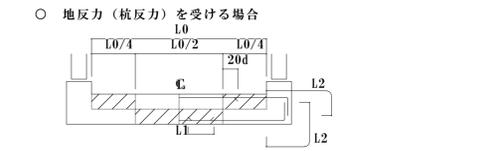
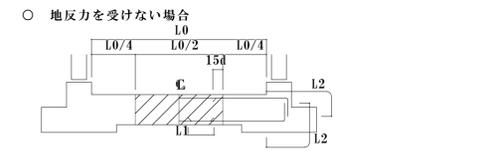
3-3 帯筋の加工



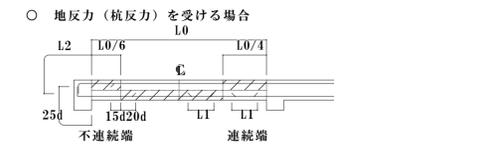
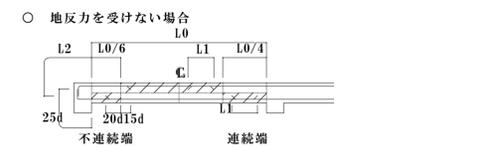
§ 4 地中梁

4-1 主筋の継手及び定着

- 1 地中梁 ○ ハッチ内に継手を設ける事。
○ 圧接の場合は柱面又は梁面より500以上離す。



- 2 地中小梁 ○ ハッチ内に継手を設ける事。
○ 圧接の場合は柱面又は梁面より500以上離す。



4-2 あばら筋

- 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計フック以下に割り付ける。 L ≤ 10cm
 - ②、③はスラブ付きに限る。
 - ③、④は地中梁で梁成の大きい場合。
 - 溶接継手は帯筋の項を参照の事。
 - 段落とし主筋の定着部から10cmの範囲内に横補強筋を配筋する。
-

4-3 補助筋

腹筋	D < 600	不要
	600 ≤ D < 900	2-D10 (1段)
900 ≤ D < 1,200	4-D10 (2段)	
D ≤ 1,200	D13-φ500以内	
腹止筋	D10-φ600 以内	
受筋 吊り筋	D10-φ600 以内	

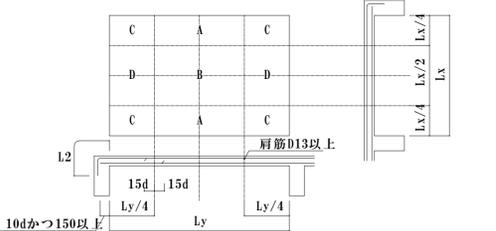
4-4 梁の貫通補強



- 梁貫通孔は梁成の1/3以下とする。
- 孔が複数の場合は中心間隔を孔(φ)の3倍以上とする。
- 位置はスラブ中央部分L0/2の範囲内で梁成の中央とする。
- φが100未満のとき補強を必要としない。
- φが150以下のとき補強筋は縦横斜共 2-D13 とする。
- 溶接金網のピッチは100以下とし梁の両面入れる。
- 環状筋は溶接金網と溶接する。

§ 5 床版

5-1 鉄筋の定着

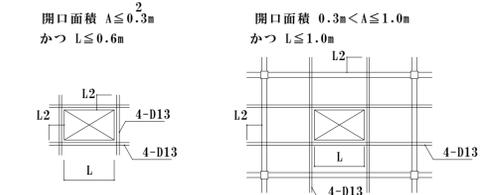


5-2 継手

上端筋	標準継手位置	
	短辺方向	B D
下端筋	長辺方向	A B
	短辺 長辺方向	A C D

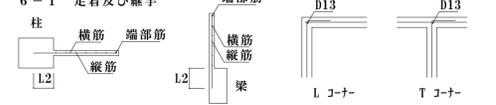
ベタ基礎の耐圧スラブは上端、下端を逆にする。

5-3 開口補強



§ 6 壁

6-1 定着及び継手

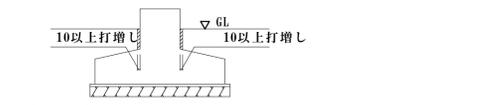


6-2 壁配筋リスト

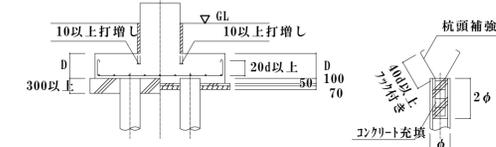
符号	壁厚	縦筋・横筋	端部筋	コーナー筋
W10	100	D10-φ150シケφ	1-D13	1-D13
W12	120	D10-φ150シケφ	1-D13	1-D13
W15	150	D10-φ150シケφ	2-D13	1-D13
CB	100~150	D10-φ400シケφ		

§ 7 基礎

7-1 独立基礎

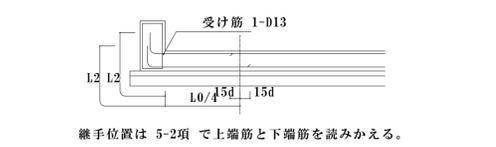


7-2 杭基礎



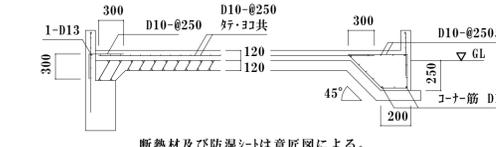
300φ : 4-D13	350φ : 4-D13	400φ : 6-D13
450φ : 8-D13	500φ : 8-D13	600φ : 8-D16

7-3 ベタ基礎



§ 8 その他

8-1 土間コンクリート



断熱材及び防湿シートは意匠図による。
鉄骨標準図の階段詳細図参照

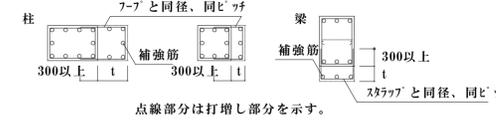
8-2 土間コンクリート補強



8-3 柱脚のコンクリート被覆

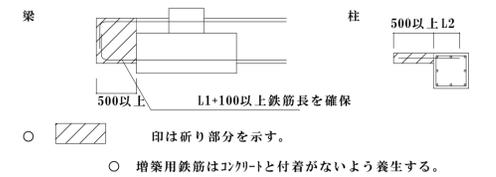


8-4 打増し補強



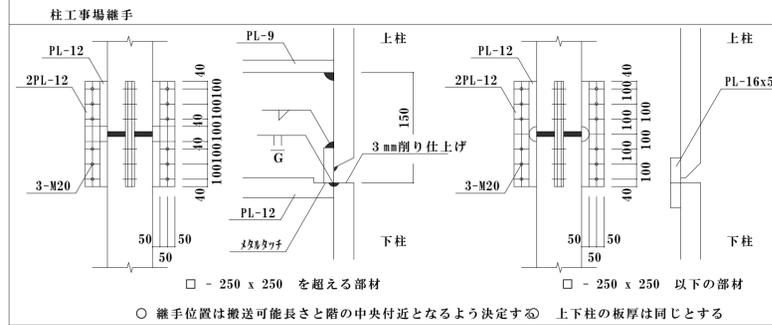
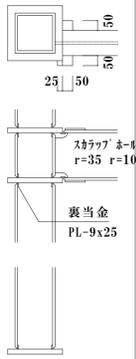
点線部分は打増し部分を示す。
補強筋 t ≤ 50 : 補強筋不要 50 < t ≤ 100 : D13-φ300 100 < t ≤ 200 : D16-φ300 200 < t ≤ 300 : D16-φ200

8-5 増築予定

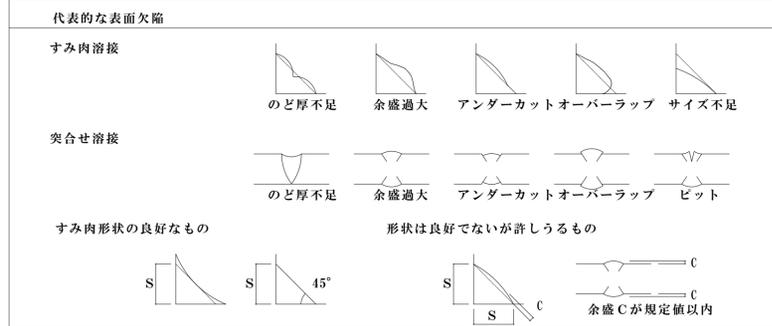


パネルゾーン詳細図

- パネルゾーンは右記の要領で作製する。
- ダイアフラムは梁フランジ厚を参考にダイアフラムリストに依り決定する。
- エンドタブの厚さは梁フランジ+補強プレート厚とする。
- エンドタブ及びエプロンプレートは15m/m程度離して、溶接完了後母材よりガス切断し、切断面は平滑に仕上げる。
- 裏当て金はエンドタブと同長分延長する。
- 仕口部分は、C02半自動溶接機を用いる。
- 溶接は、現場溶接以外は、全工程を通じ建屋内で行う。
- 現場溶接の関先内は、溶接直前にガス炎にてクリーニングを行う。
- C02半自動溶接の場合、風速 2m/sec以上ある場所で溶接を行ってはならない。
適当な、防風処置を講じた場合はこの限りでない。
- 本工事に従事する溶接工は、下記の資格を有する事。
SN-2F SN-2V SA-2F SA-2V
- 全ての仕口開先溶接は超音波探傷試験を行う。
- 係員が必要と認めれば、技量付加試験を行う。
費用は、請負者負担とする。



すみ内サイズ		すみ内形状		すみ内溶接端部
板厚 t (mm)	サイズ (mm)	のど厚	のど脚長	
2.3	3.5	のど厚不足	のど脚長不足	25以上 エンドタブを取り付けて処理することを原則とする。 回し溶接出来る場合は、回し溶接が良い。 何れも無理な場合は、かえし溶接を行う。
3.2	4.8	のど厚不足	のど脚長不足	
4.0	6.0	のど厚不足	のど脚長不足	
4.5	6.0	のど厚不足	のど脚長不足	
t ≥ 6	t	のど厚不足	のど脚長不足	

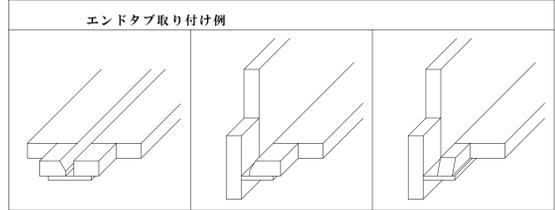
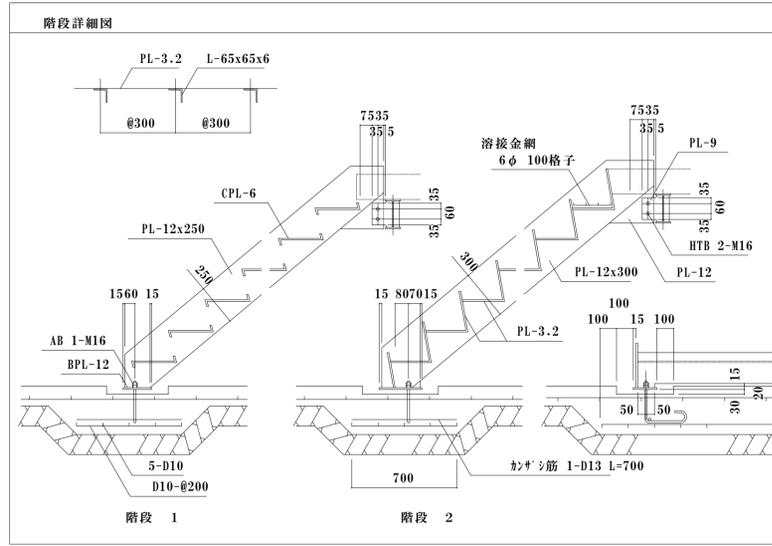
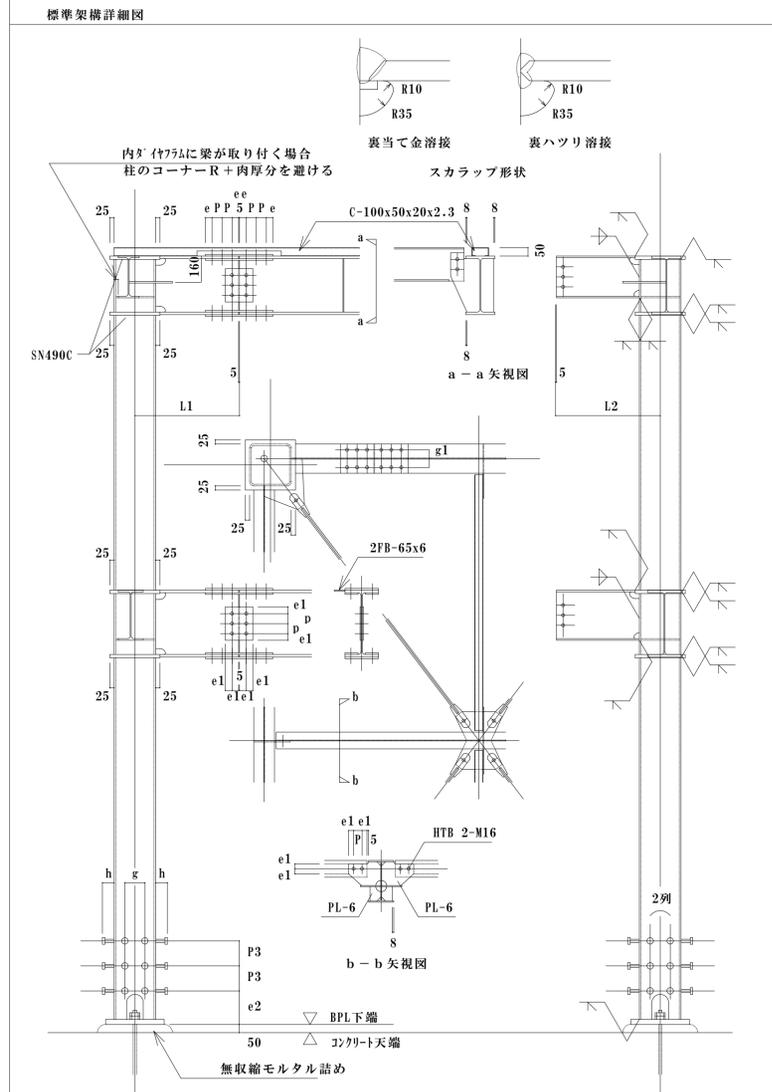
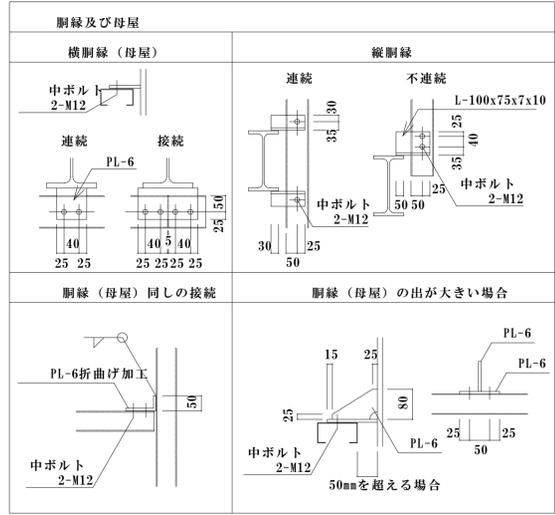
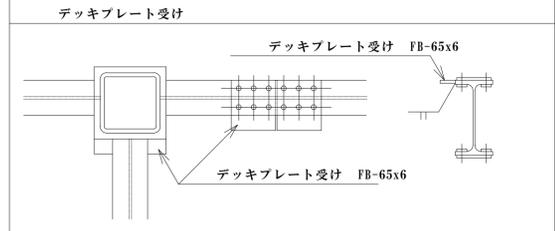
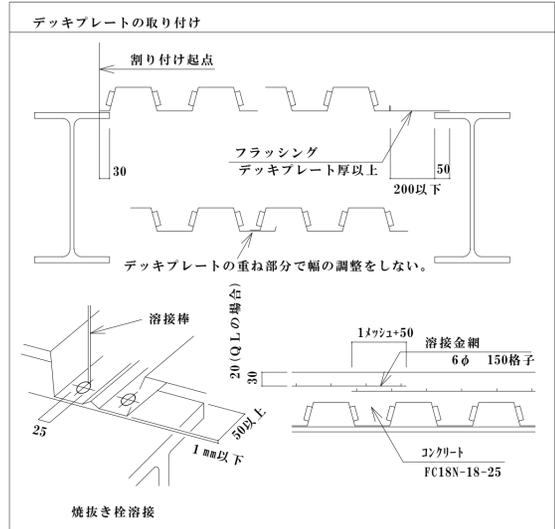
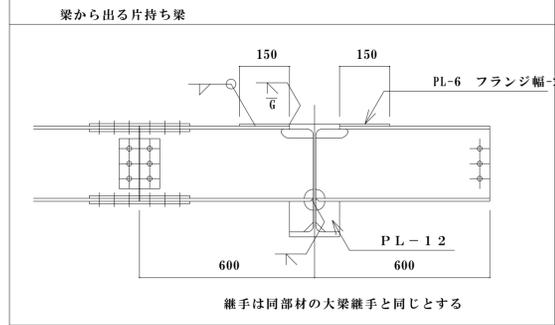


- 欠陥溶接の補正
- 1 オーバーラップ・余盛過大はグラインダーで平滑に仕上げる。アンダーカット・断面不足は4mm以下の溶接棒で溶着金属を盛り足す。
 - 2 割れの入った溶着金属は全長にわたって削除し再溶接する。超音波検査等により形状及び位置が明らかな場合割れの端から50mm以上削り取ればよい。
 - 3 母材に割れが入った場合関係者立ち会いで検討し母材の取り替えか補修が善処する。

加工に誤差が生じた場合の補正

- 係員が認めれば下記の補正を行ってもよい。

突き合せ溶接の場合	すみ内溶接の場合
<ol style="list-style-type: none"> 1 所定のルート間隔 ~ 12mm 	<ol style="list-style-type: none"> 1 2mm以下 そのまま溶接を行う 2mm以下
<ol style="list-style-type: none"> 2 12mmを超えた場合 300mm以上 板の全部又は、一部の変更 	<ol style="list-style-type: none"> 2 2mm ~ 5mm a = 2を超え5mm以下 L = S + a S : 規定サイズ
<ol style="list-style-type: none"> 3 上下差が大きい場合 	<ol style="list-style-type: none"> 3 5mmを超える場合 6mm 45°以上 裏当て金 PL-6以上 3mm以下 t/4

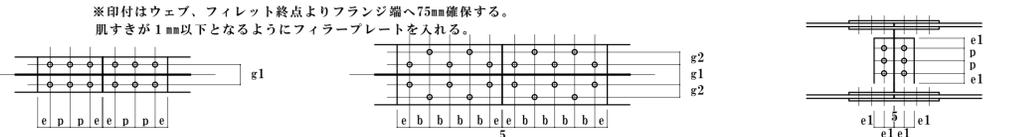


補強すみ内溶接と余盛

T継手・角継手の場合は、下図に示すように突合せ側の母材の厚さの1/4以上のすみ内溶接を付加する。但、そのサイズが10mmを超えるときは10mmとしてよい。

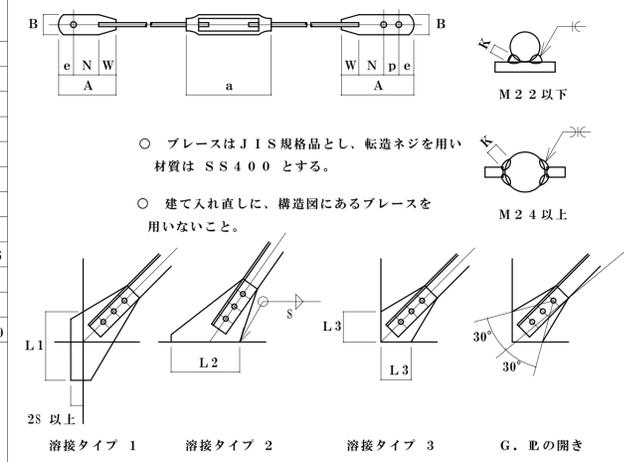
のど厚 t (mm)	余盛の高さ (mm)
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 20	3
20 < t	4

大梁リスト				
符号	部材	継手呼称	備考	添え板
角肉溶接				
径	本数	p	e1	
GM48	H-488 x 300 x 11 x 18	GGF-4X-J5030-1219-20		
GM58	H-588 x 300 x 12 x 20	GGF-4X-J6030-1219-20		
GM20	H-194 x 150 x 6 x 9	GGF-4X-J2015-0609-20		
cGM15	H-150 x 150 x 7 x 10			
GM29	cGM29 H-294 x 200 x 8 x 12	GGF-4X-J3020-0612-20		
CG15	H-150 x 75 x 5 x 7			
X				
G35	H-350 x 175 x 7 x 11	GGF-4X-J3517-0612-20		
G40	H-400 x 200 x 8 x 13	GGF-4X-J4020-0912-20		
G45	H-450 x 200 x 9 x 14	GGF-4X-J4520-0916-20		
G50	H-500 x 200 x 10 x 16	GGF-4X-J5020-0916-20		
G30	H-300 x 150 x 6.5 x 9	GGF-4X-J3015-0609-16		
G545	端部 BH-500 x 200 x 12 x 16	GGF-4X-J5020-0916-20		
G545	中央 H-450 x 200 x 9 x 14			
CG15	H-150 x 150 x 7 x 10			
CB25	H-250x125x6x9	GGF-4X-J2512-0609-16		
T10	方杖 □-100 x 100 x 4.5			

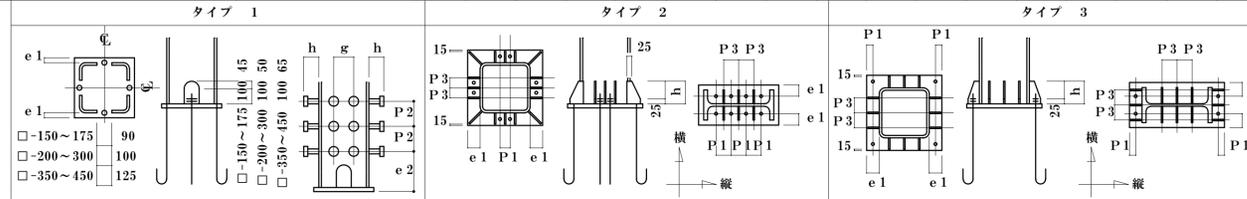


ダイヤフラムリスト							備考
フランジ厚	8 ~ 9	11 ~ 14	15 ~ 18	20 24	26 ~ 28		
ダイヤフラム厚	H-12	H-16	H-19	H-22 H-25	H-32		柱肉厚及び、柱に取り付く梁の最も厚いフランジで、ダイヤフラム厚を決定する。内ダイヤフラムに取り付く外付け梁は、柱外端より柱コーナーR+柱肉厚分離す。

ブレースリスト												
符号	径	羽子板				a	ガセットプレート			高張力ボルト		
		T x B x A	N	W	e, p		K	t x b	溶接		L2	L3
M12	4.5	38 x 125	50	40	35	6	200	6 x 60	5	45	40	1-M12
M16	6	50 x 160	60	55	45	7	250	6 x 75	5	60	50	1-M16
M20	9	65 x 195	70	75	50	8	300	9 x 85	8	65	60	1-M20
M22	9	75 x 215	75	85	55	9	330	9 x 85	8	75	65	1-M22
M24	9	75 x 255	70	85	50	10	350	12 x 100	10	85	70	2-M20
M27	9	90 x 265	75	90	50	11	400	12 x 100	10	105	90	2-M20
M30	12	90 x 290	85	95	55	14	400	12 x 110	10	125	95	2-M22
M33	12	100 x 310	90	110	55	15	450	12 x 110	10	145	100	2-M22



柱リスト		ベースプレート (厚 x 縦 x 横)	アンカーボルト					柱脚タイプ 1 スタッドボルト					柱脚タイプ 2、3 リブプレート						
符号	部材		径	本数	L	P1	e1	タイプ	径(φ)	本数	列	g	h	P2	e2	全枚数	IL	h	P3
③0	□-300x300x12	BCR295	EB300	ハイバース neo 4-30															
②0	□-200x200x9	BCR295	EB200	ハイバース neo 4-24															
①1	H-100x100x6x8	PL-12x125x125	M20	2															
P25	H-250 x 125 x 6 x 9	PL-19 x 225 x 300 SS400	M20	4															



小梁リスト												備考
符号	部材	ウェブ継手						備考				
		タイプ	径	本数	p1	p2	e1		e2			
B15	sB15 H-150 x 75 x 5 x 7	PL-6	M16	2x2	40	60	40	40	1			
B17	sB17 H-175 x 90 x 5 x 8	PL-6	M20	2	60		40	40	2			
B20	sB20 H-200 x 100 x 5.5 x 8	PL-9	M20	2x2	60	60	40	40	3			
B20	sB20 H-200 x 100 x 5.5 x 8	PL-9	M20	2	60		40	40	2			
B25	sB25 H-250 x 125 x 6 x 9	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	3			
B24	H-248 x 124 x 5 x 8	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	2			
B30	H-300 x 150 x 6.5 x 9	PL-12	M20	3x2	60	60	40	40	3			
B29	H-298 x 149 x 5.5 x 8	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	2			
B35	sB35 H-350 x 175 x 7 x 11	PL-12	M20	3x2	90	60	40	40	3			
B34	H-346 x 174 x 6 x 9	PL-12	M20	3x2	90	60	40	40	2			
B39	H-396 x 199 x 7 x 11	PL-12	M20	5	60		40	40	2			
B40	H-400 x 200 x 8 x 13	PL-12	M20	5	60		40	40	2			
B45	H-450 x 200 x 9 x 14	PL-12	M20	5	70		40	40	2			
B50	H-500 x 200 x 10 x 16	PL-16	M22	5	70		40	40	2			
	□-100x100x2.3	PL-6	M16	2	60		40	40	1			

種部材リスト		
符号	部材	ボルト
母屋	C-120 x 60 x 20 x 3.2 @450	2-M12
脚縁	C-100 x 50 x 20 x 3.2 @450	2-M12
	開口補強 □-100 x 100 x 4.5	
備考	○ 軒先端の母屋はリスト部材を2本入れる。 ○ 横脚縁の場合開口部上下はリスト部材を2本入れる。 ○ 横脚縁の場合開口部両横はリスト部材を2本入れる。	

構造特記仕様書	
□ 使用材料	SM材、SN材 及び係員から請求のあった材料はミルシート提出の事。
○ 鋼材	形鋼、平鋼、帯鋼 …… SN400 軽量形鋼 …… SSC400 ボックスコラム …… STK400 鋼管 …… STR400 角形鋼管 …… BCR295 デッキプレート …… 合成床版認定品 厚1.2 取り付けはメーカー仕様による。デッキプレート上の溶接金網は 一般階：6φ-150格子 屋上階：6φ-100格子とする。 アンカーボルト …… SNR490
○ 高張力ボルト	F10T 建設省告示 1795号に適合する特殊高力ボルトを使用。
□ 防錆塗装	JIS K 5622 2回塗 1回目1種 2回目2種を原則とする。冬期間等止むを得ない場合は、係員の承認を得て JIS K 5625 2回塗 1回目1種 2回目2種としてよい。建て完了後補修塗を行う。 以下の部分には塗装を行わない。 ① コンクリートに埋め込まれる部分 ② 鋼材が重なり摩擦で力が伝達される部分 ③ 密閉される部分 ④ 現場溶接を行う部分と両側100mm以上、且つ超音波探傷に支障を来たさない範囲
□ 素地調整	2種クレン（浮き錆、不安定な黒皮の除去） 摩擦面はボルト穴周辺のまくれ、返りを取り除き摩擦面をへこませないよう 平グラインダーで座金径の2倍以上の範囲で、黒皮を除去し自然発錆の赤錆面とする。 浮き錆となったもの（屋外放置で半月程度）は、面が光らないよう除去する。
□ 溶接工場の承認	溶接工場は建設省告示 1103号の認定工場の内、全構造認定のRグレード以上とする。 提出書類 ① 工場名称 ② 溶接施工管理組織及びその責任者名簿 ③ 溶接に関する機械設備の概要 ④ 溶接工の名簿 ⑤ 溶接の施工、検査に関する社内規程 ⑥ 溶接に関する工事実績及び承認試験実績
□ 仕様書	日本建築学会編各種標準仕様書及び、同鉄骨工事技術指針に依る。

ハイベースNEO工法設計施工標準

(ハイベースNEO工法 Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法 Eタイプは、S造に適用)

2016/1

大臣認定
BCJ評定

※本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨構造設計規程、建築工事標準仕様書 JASS 4 鉄骨工、建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

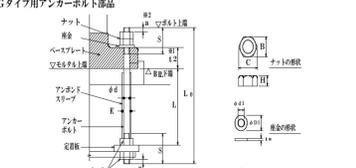
1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (Eタイプ、EM型、EH型)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
	JIS G3136	JIS B1131 (六角ナット)	JIS B1131 (六角ナット)	JIS G3141	JIS G3141 (一般構造用圧延鋼材)	JIS G3141

ねじの種類: —
備考: SN1908 SN1909 (鋼材厚10mm以下) 鋼材厚10mm以下 鋼材厚10mm以下 鋼材厚10mm以下



2. ベースプレート下面のモルタル

ハイベース工法鉄筋モルタルNX2000、又はクイック3

○無収縮性モルタルハック用 (固形) 又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は採用不可、専用のモルタルを使用のこと。)

○強度はこれに劣るコンクリートの強度以上

アンカーボルト

ねじの呼び	ねじ長さ	ねじ径	全長	外径	高さ	二対角距離	二対角距離	内径	外径				
M24	21	3	105	39	480	445	29	39	36	42	6	25	44

(2) ベースプレート下面のモルタル

ハイベース工法鉄筋モルタルNX2000、又はクイック3

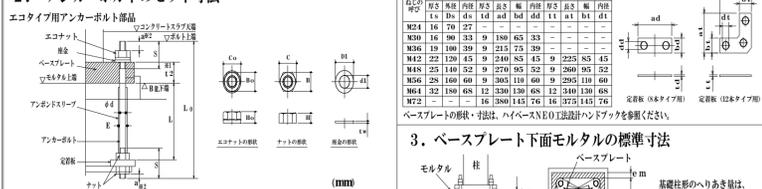
○無収縮性モルタルハック用 (固形) 又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は採用不可、専用のモルタルを使用のこと。)

○強度はこれに劣るコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート: OH本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート」に適合する普通コンクリート (設計標準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$)

鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定められる、熱間圧延異形棒鋼



3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

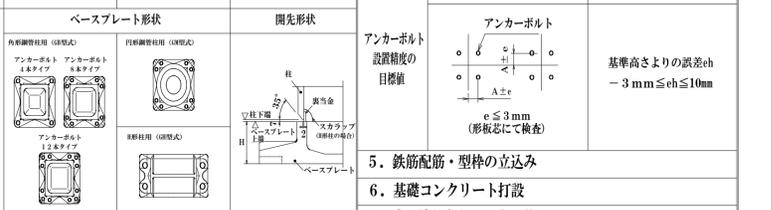
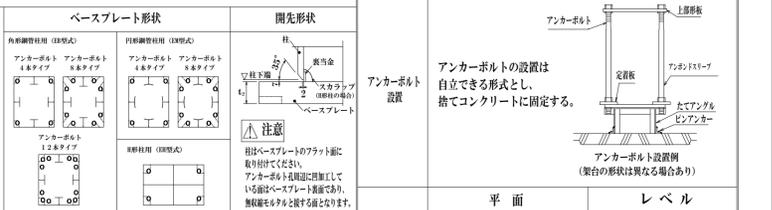
ねじの呼び	ねじ長さ	ねじ径	全長	外径	高さ	二対角距離	二対角距離	内径	外径				
M24	21	3	105	39	480	445	29	39	36	42	6	25	44

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)

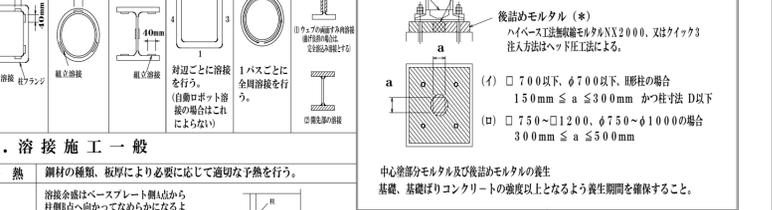
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法	許容範囲
1m-50mm	300	300 ≤ t ≤ 700mm

工場加工

- ### 1. 溶接材料
- 被覆アーク溶接: 低水素系490N/㎜² 高強度鋼材 (JIS T2312 S50E4相当以上)
- ガスシールドアーク溶接: 鉄鋼及び900/㎜² 高強度鋼材用シールドワイヤ (JIS T2312 Y8F1相当)
- ### 2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
- ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接 (開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による) ※開先形状は参考



- ### 3. 組立溶接
- 角形鋼管 40mm / 円形鋼管 40mm / H形 40mm
- ### 4. 本溶接の手順
- 角形鋼管 2mm / 円形鋼管 2mm / H形 2mm



- ### 6. 検査
- 方法: 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
- 不良溶接部の補正: (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定められた業者が行うこと。(日本建築センターの評定で資格付けられています。)

2. アンカーボルト及びナットは加熱、油後、加工は絶対に行わないでください。

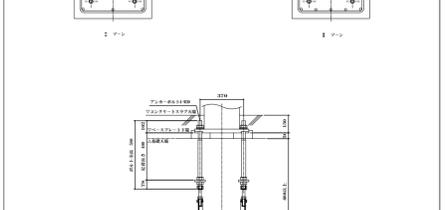
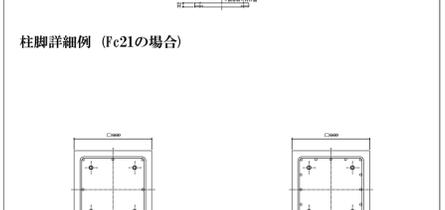
3. 設置後のアンカーボルトはねじは打ちきりやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。

4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトとしないでください。

5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

現場施工

- ### 1. 捨てコンクリート打設
- 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げ。
- ### 2. 墨出し
- ### 3. アンカーボルト搬入 (#)
- ### 4. アンカーボルト据付 (#)



- ### 5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
- ### 6. 基礎コンクリート打設
- ### 7. 中心塗り部分モルタル施工



基礎ばり端部納まり例 (Fe21の場合)

用途柱	角形鋼管柱 □200 (取付範囲: 6~10mm)			
	I ゾーン		II ゾーン	
	柱径	基礎柱主筋	巻帯	基礎の定着長さ
<側・端部柱>	660	8-D19 (SD295)	D130150 (SD295)	660
<中柱>	660	8-D19 (SD295)	D130150 (SD295)	280

基礎ばり端部納まり例 (Fe21の場合)

用途柱	角形鋼管柱 □200 (取付範囲: 6~10mm)			
	I ゾーン		II ゾーン	
	柱径	基礎柱主筋	巻帯	基礎の定着長さ
<側・端部柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	350
<中柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	200

センクシア株式会社 (旧社名: 日立機材株式会社)

本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

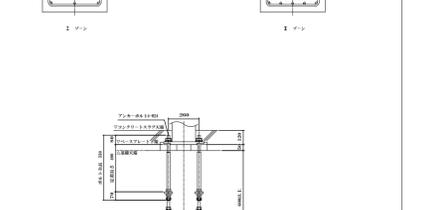
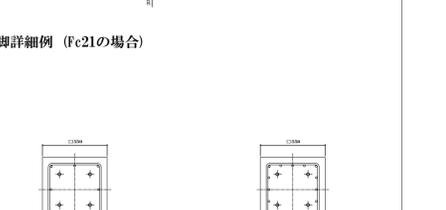
設計 一級建築士登録第261836号 酒井 武志
担当 一級建築士登録第104960号 金山 泰夫

URL <https://www.sencjia.co.jp/>

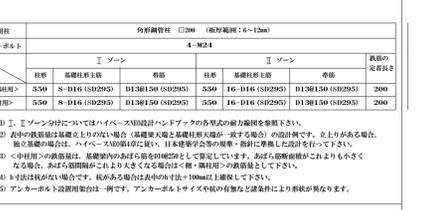
北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
関西 TEL 06-6395-2133 中国国 TEL 082-240-1630

現場施工

- ### 1. 捨てコンクリート打設
- 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げ。
- ### 2. 墨出し
- ### 3. アンカーボルト搬入 (#)
- ### 4. アンカーボルト据付 (#)



- ### 5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
- ### 6. 基礎コンクリート打設
- ### 7. 中心塗り部分モルタル施工

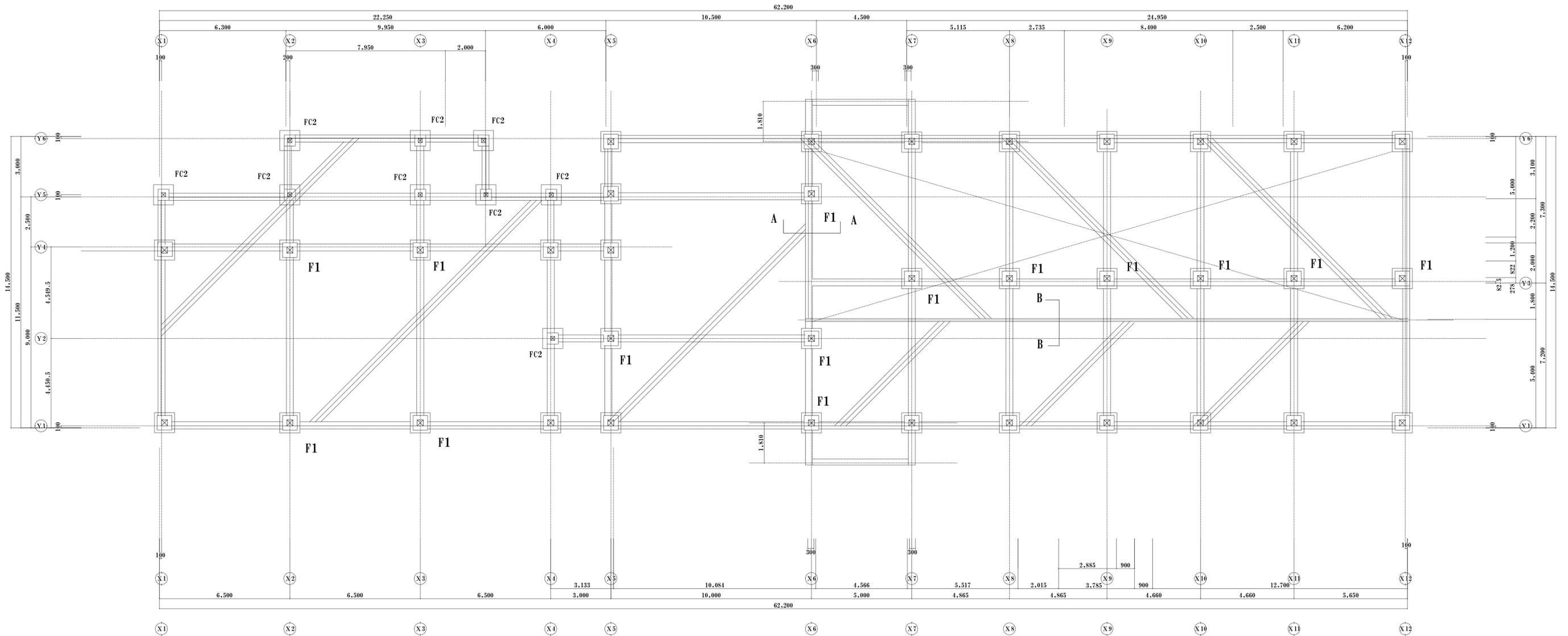


基礎ばり端部納まり例 (Fe21の場合)

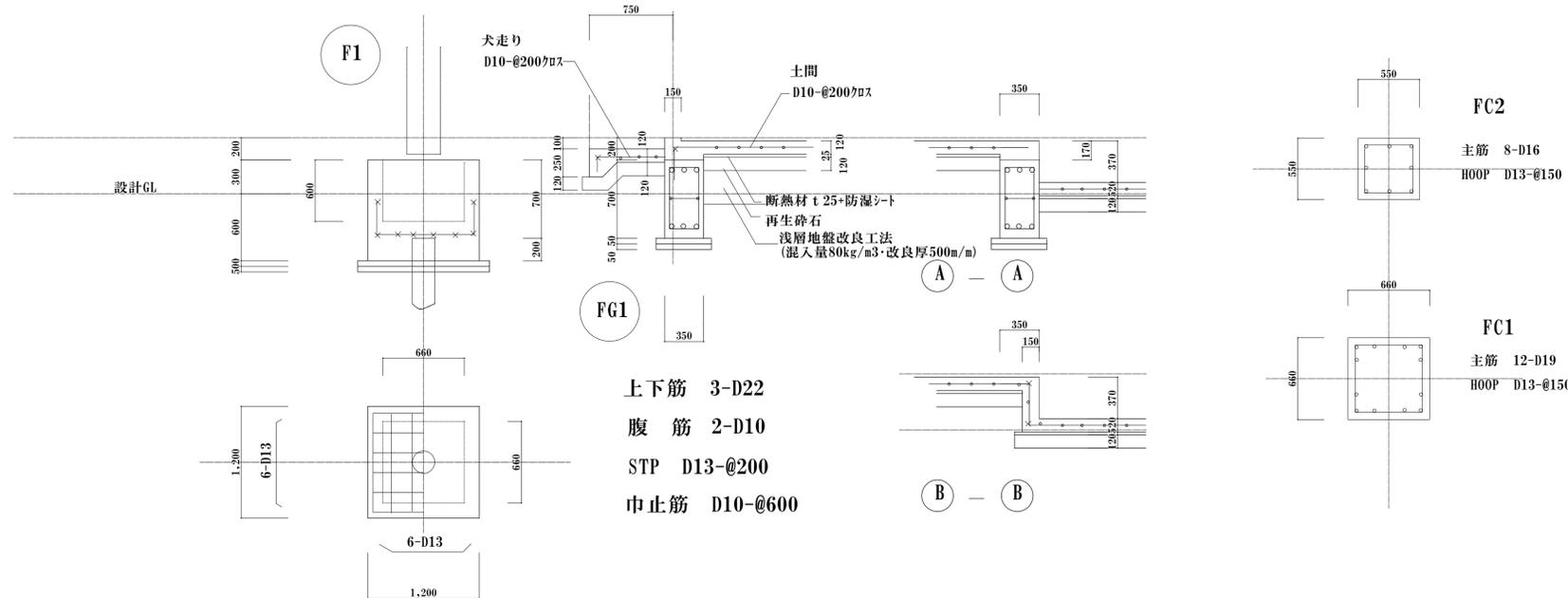
用途柱	角形鋼管柱 □200 (取付範囲: 6~10mm)			
	I ゾーン		II ゾーン	
	柱径	基礎柱主筋	巻帯	基礎の定着長さ
<側・端部柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	350
<中柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	200

基礎ばり端部納まり例 (Fe21の場合)

用途柱	角形鋼管柱 □200 (取付範囲: 6~10mm)			
	I ゾーン		II ゾーン	
	柱径	基礎柱主筋	巻帯	基礎の定着長さ
<側・端部柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	350
<中柱>	350	8-D16 (SD295)	D130150 (SD295)	200



基礎伏図・1F床伏図 1/100



特記事項 記載なき基礎はF2、FC1とする
 記載なき基礎梁はFG1とする

▨ 土間コンクリート t 120 D10-@200クロス
 再生砕石 t 120

立上り壁W150 D10-@150クロス
 犬走りは意匠図による。

杭仕様 G-E C S パイル工法

F2 190.7Φ x 7.0 L=4.5m 材質STK490 30 本
 F1 216.3Φ x 8.2 L=4.5m 材質STK490 14 本

総本数 44本